

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 4年 5月

事業所名 放課後等デイサービスひなたうずまさ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			個別の活動や課題によって室内の構造化を工夫し実施している。また、活動を分けてスペースの確保も行っている。
	2	職員の配置数は適切である	○			勤務形態及び加算体制状況は毎日の日課及び毎週、毎月チェックできている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		活動を通して必要だと判断した場合、すぐに対処している。	賃貸のため、大規模な改装(バリアフリー化)はできないが、補修等で利用者のリスクマネジメント及び事故防止に常に努めている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			法人全体会議には全常勤職員は参加し、常に情報を共有し、また処遇改善手当計画実行に役立つように機能させている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			様々な意見をいただき高評価部分は継続。ご指摘のあった事柄に対しては内容を全職員で周知し、改善策を考えている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			文書またはHP上で公開
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			書面としての記録はない。適切な外部評価があるかどうか不明だが、意見は取り入れていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修を受けた職員が他の職員に共有できるように社内研修も行っている	大阪府下の外部研修の情報を入手し、職員が積極的に参加できる機会を法人として保障できている
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		送迎時に保護者と情報共有・交換を行なっている。さまざまな専門職の目線での意見を交換している	保護者や利用児童と普段からのコミュニケーションを大切にしながら、モニタリング面談等の中からニーズの整理をし計画作成できている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		視覚支援など、障がいに合わせたツールを準備している	継続してできている
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		スタッフのそれぞれの立場からの意見を取り入れて行なっている。	立場の違う職員間でも、それぞれの専門性を活かしながら、常に利用者の活動立案を行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		常に最新の流行など情報を取り入れて活動を考えている。	継続してできているがまだまだ工夫の余地ありと常に職員間で(案)を出し合い話し合っている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		日々の日課表で共通した支援が行えるように課題を記載して取り組んでいる。	継続してできている 日課表参照
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			「生活」「遊び」「労働」「家族支援」「地域連携」項目ごとに分けながら課題を設定できている
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			始業時、毎日のミーティングで確認。継続してできている
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			就業前、毎日「1日の振り返り」を継続してできている
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			1日ごとに継続してできている
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		個別ケース会議などで話し合っている	保護者からの相談などがあった場合、迅速に面談・電話での聞き取り等を行ない、必要と判断した場合は計画の見直しをしている
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			継続してできている

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			相談支援事業者に依頼されているケースが少ないため、件数は多くはないが継続してできている
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			常に学校と連絡、連携が取れる状況は、継続してできている
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○			現在まで医療的ケアが必要な利用者数0看護師が常駐しておらず受け入れ的には難しい状況
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			児童発達支援事業所や市のケースワーカーと常に情報共有できる状況ではある。継続してできている
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			依頼や希望があれば情報提供している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			市の療育相談(発達診断・相談)をよく利用し、助言をもらっている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			まだまだ不十分と考える。継続して地域連携等含め努力していく。直接的な関わりは少ないが、お祭りに参加するなどの活動は時期ごとに行なっている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			自立支援協議会へはまだ参加できていない。寝屋川市放課後等デイサービス事業所連絡会では運営委員で参加している
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎時の毎日の申し送り、引き継ぎで共通理解できていると考えている。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			各家庭個別対応できている。継続していく
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			制度改正に伴い、その内容や料金等の説明が必要なご家庭に対しては丁寧な説明が行えている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			保護者の悩みの受容と共に解決策を考えていけるように働きかけを行えている。継続していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			父母の会等は存在しないため開催もなし。毎月一度、ひなたサロンを独自に設定し、保護者間でのコミュニケーションの場所作りを提供できている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			苦情等あった場合は迅速かつ適切に管理者が対応できている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			年2回のひなた通信を発行。また、日々の細かな連絡等は都度お知らせお便りを出すなどし、発信している。
	35	個人情報に十分注意している	○			常に意識し出来ている
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			個々の特性に合わせて工夫できている
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			地域清掃の参加やおもちつき等行事へのお誘いをし、開かれた事業所運営に努力している

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			職員には周知できている。保護者に対しては、防災研修に呼びかけたり、災害伝言ダイヤルを準備し、保護者へマニュアルを配ったりしているが完全には周知できていない。マニュアルを再度配布するなど周知が行き渡るようにしていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			定期的な避難訓練等実施。火事、地震想定。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			外部研修を積極的に利用し、職員の研修機会を確保している
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			現在まで、検討しなければならないケースはないが、アセスメントなどで身体拘束についての説明は行なっている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			医師の指示書がある場合、または保護者からの告知要望により全て対応可
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			事例集としてまとめていない。振り返りや会議等で共有している